2022 年 12 月 24 日

中学ラグビー部の快挙から何を学ぶ

立命館慶祥中学校・高等学校
校長　江川　順一

12 月 18 日から冬休みが始まりました。この原稿は、17 日の中学全校集会の校長講話において話したことをベースに、加筆してまとめたものです。

今年最後の全校集会に当たって、お話を４つします。

まず、１つ目、「新型コロナの状況」です。

新型コロナウイルスの新規感染者は、15 日現在、北海道で 6,371 名となりました。1 日の新規感染者数は前の週の同じ曜日を 14 日連続で下回りましたが、依然として高い水準が続いています。

今年の年末年始は、３年ぶりに行動制限のない年末年始です。冬休みに入ると、人との接触機会は確実に増えます。皆さんは、混雑する場所など、感染リスクが高まる場面での行動について、日常の感染対策を十分行うよう留意してください。

今年の１月にはオミクロン株が道内で初めて確認され、置き換わりが進む中で感染が急速に拡大しました。現在、「BQ.1」の検出がだんだん増え、オミクロン株のように、急速に拡大する可能性があります。そして、今冬、新型コロナウイルスに加えて、インフルエンザも流行するきざしがあります。インフルエンザ感染対策は、新型コロナウイルス感染対策と同じです。十分注意してほしいと思っています。

２つ目、「研修旅行」です。

この秋、新型コロナの状況を見据えながら、学校行事を平常時に戻していく中で、中学校にあっては、中１・中２の研修を実施しました。

中１の北海道研修は、９月下旬に２泊３日で実施。研修テーマは「飛び込め十勝！同心協力×一期一会」でした。スマート農業の更別村、アジア初の民間企業によるロケット製造と打ち上げを行った、インターステラテクノロジズの大樹町などを訪ね、北海道の生活や産業について学びました。十勝方面への北海道研修は、初めての試みでした。

中２の京都研修は、10 月中旬に３泊４日で実施。研修テーマは「世界に誇れる日本を探す旅ー京都で学ぶ日本のすばらしさー」として、「Kyoto カラフル」を掲げました。立命館大学の KIC（衣笠キャンパス）・BKC（琵琶湖くさつキャンパス）において、キャンパスツアーと大学の先生による体験授業が 11 学部 12 講座実施されました。また、京都市内でコース別自主研修 11 コースをあわせて実施しました。

２月には、中３の NZ 研修も控えており、着々と準備が進められています。

また、海外研修も再始動しています。2019 年度以来、３年ぶりです。９月下旬、７泊８日で第１弾のカナダバンクーバー研修が行われました。研修テーマは「共生社会のあるべき姿をデザインする」として、民族共生について、フィールドワークと現地の方々と議論を重ねました。

明日 18 日には、マレーシア、ボルネオ島、ベトナムの３コースが同時に出発します。年明けには、ハワ

立命館憲章：「確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、
正義と倫理を持った地球市民として活躍できる人間の育成」

イ、ハーバード大学、GLA ネパール、GLA オーストラリアなどが出発します。

慶祥の大きな魅力の一つは、研修旅行です。研修旅行のために、事前の準備をたくさん重ねてきた皆さん、本当にお疲れ様でした。その思いは、皆さんとともに準備に真剣に、そして懸命に取り組んできた教員も一緒です。

そのことを改めて確かめて、生徒の皆さんの、そして先生方の労苦をねぎらいたいと思います。

３つ目、「中１のボディパーカッション・コンクール」です。

12 月 14 日の１・２校時、中１が主催した「ボディパーカッション・コンクール」が開催されました。ボディパーカッションとは、拍手・足踏み、太ももを叩いたりして、身体から音を発して奏でるというものです。

今回のコンクールは、クラスごとにテーマを決めることからスタートし、課題曲の八木節に加えて、各クラスの工夫を凝らした創作の挿入を条件としました。これにより、合唱コンクールのような審査が可能となり、各クラスの工夫が活かせる取組となりました。

「With コロナ」の中、今年の中学合唱コンクールは中止となりました。しかし、中１学年団は、「With コロナ」下においても、挑戦できることはないか追求した結果、このような意欲的な試みに結実したのです。練習期間は２ヶ月間。集中した取組により、各クラスとも素晴らしいボディパーカッションを披露してくれました。５つのクラスが発表を行いましたが、一つとして同じものはありません。各クラスがその個性を活かして、思う存分集中し、見事な演奏をやり遂げていました。本当に素晴らしかったことを報告します。

４つ目、「中学ラグビー部による東日本大会第３位入賞の快挙」です。

「第 42 回東日本中学校ラグビーフットボール大会」に、中学ラグビー部が北海道・東北代表として出場しました。本大会は 12 月３・４日、東京都江戸川区で開催され、慶祥チームが第３位入賞を奪取しました。北海道勢の第３位は、42 回を数える大会史上初の快挙でした。

準決勝戦は、國學院久我山中（東京都予選 1 位）。慶祥中は昨年度優勝校との対戦というプレッシャーから圧倒され、０対 78 で惨敗でした。私は、この試合を応援しに行きました。全国的な大会への初出場ということで、慣れない雰囲気や相手の迫力に圧倒された感がありました。試合後、選手の皆さんには「まずは１トライ！」と、校長として熱いメッセージを伝えました。

３位決定戦は、千歳中学校（東京都予選２位）と対戦でした。相手チームの体格は、慶祥を上回っているように見えました。前半を０対 15 で折り返す苦しい展開。しかし、慶祥チームは、最後まで戦う姿勢を崩しませんでした。そして、後半だけで４トライを奪う猛攻の末、26 対 25 で１点差の逆転勝利を収めました。なんと、試合終了間際のラスト１分での逆転勝利でした。

東日本各地から勝ち抜いてきた出場校は 16 校。その中で、第３位入賞を「ONE TEAM」の「立命魂」で勝ち取ることができました。東京都２位の格上チームを大逆転。素晴らしかった。鮮やかだった。

相手がどんなに強くとも、決して諦めない気持ち。絶えず前を向き、果敢に挑戦する気持ち。そんな強い気持ちを持つ仲間が、あなたの身近にいるのです。このことを踏まえて、冬休み、あなたは、自分をどのように変えますか？　冬休み明け、ひときわ成長した皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

年明けには、再び皆さん全員が揃って、元気な姿を見せてください。

以上、応援団長の江川校長からのお話でした。